

打込鋸システムを実用化 デッキプレートと梁を鋸で接合

マックス

「ム」を開発・実用化した。システムの設計・施工要領書を作成し、普及に向けて施工法の提案活動を展開している。

同システムは合金鋼製の打込鋸を用いてデッキプレートと鉄骨梁を接合するもので、従来のアークスポット溶接で施工されている作業の代替となる。

マックス(東京都中央区日本橋箱崎町6-6、☎03・3669・8125)はこのほど、打込鋸でデッキプレートと鉄骨造建築物の梁を仮設接合する「デッキプレート+鉄骨梁の接合同向マックス打込鋸システム」を開発・実用化した。

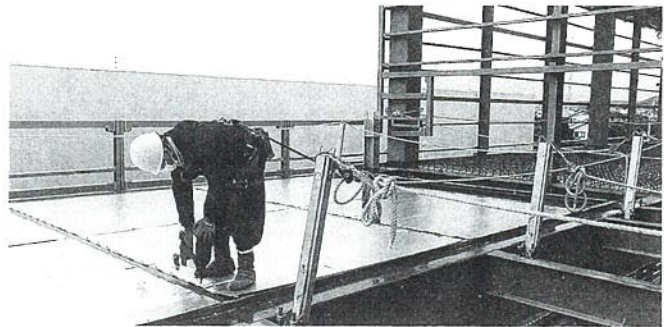
使用する鋸打機はガス式のマックス鋸打機、ガスネイラと高圧エア式のスーパードライの2機種。いずれも火気を使用しないことが最大の特徴で、鋸刀法の対象外商品となっている。特にガスネイラは本体内にガスカートリッジを充填するコードレスタイプで3・7kgと軽量なため、取り回し

が容易となっている。

打込鋸の材質はJISで規定された合金鋼を使用し、熱処理を施すことで硬度を上げ、引張強度も高めている。

同システムはすでに商業ビルや物流施設など複数の現場で適用されている。その際、実施したスポット溶接作業との比較実験ではスポット溶接が1カ所あたり約5秒かかるのと、同システムが約3秒と、約1・5倍のスピードアップとなることを確認している。

同社では工法の有効性を高めるため、打込鋸の基礎的な性能と構造部材への影響について**東京工業大学**



「マックス打込鋸システム」の施工事例

吉敷祥一教授と共同研究を継続的に実施。さらに、専用の設計・施工要領書を作成し、建設会社などの関係先に普及に向けた工法の提案活動を展開している。